

## 福岡県交通安全施設業協会の「第1回通常総会」開く 初代会長に田中氏を選出、予算獲得や分離発注等の平成29年度事業計画を決める



新役員や平成29年度事業計画などを決めた第1回通常総会

福岡県内の交通安全施設業者と関連の賛助会員で組織する「(一社)福岡県交通安全施設業協会」(田中賢哉会長 会員71社 賛助会員21社)の第1回通常総会は27日、福岡市の博多サンヒルズホテルで開き、予算獲得・経費率アップ・分離発注の陳情活動を行うなどの平成29年度事業計画(案)、平成29年度予算(案)などを原案通り可決承認したほか、田中会長を初代会長とする新役員を決めた。

協会は今年4月に道路標識、路面標示、防護柵などの交通安全施設業に携わる会員71社(福岡26社、北九州20社、京築4社、筑豊17社、筑後4社)と関連業者の賛助会員21社で設立。会員相互の融和及び団結を図り、交通安全施設に関わる調査研究及び技術の向上と安全でかつ円滑な道路交通の確保に寄与することを目的とし、啓発活動や工事設計・コンサルタント、調査及び研究活動、災害時の復興支援事業(防災協定)などを事業とする。

総会は、和田隆浩氏(楸山水製作所)の司会で進行。冒頭、挨拶に立った田中会長は「昨年12月から設立委員会を設置し、今年4月に登記が完了、正会員71社、賛助会員21社の合計92社の専門工事業団体を立ち上げました。福岡県県土整備事務所の工事発注量は平成26年度が346件の約21億

3,800万円、平成27年度328件の約15億5,900万円、最盛期は平成22年度



総会で挨拶する田中会長

の448件、約27億3,400万円で、年々減少傾向にあり、そのままでは業界の存亡の危機にもなりかねない」と設立趣旨を報告し、「発注量の減少は我々業界に力がないことが一番の原因だと思います。今後は、我々業界で団結し、官公庁に対しての予算獲得、分離発注、調査活動、防災協定、ボランティア等を実施し、皆様の協力を得ながら業界を盛り上げていきたい」など初代会長としての抱負を述べた。

このあと、田中会長を議長に選出し、①会長・役員（案）の承認、②平成29年度事業計



副会長、理事、監事などの新役員

画（案）の承認、③平成29年度予算（案）の承認等について審議し、いずれも原案通り可決承認した。平成29年度事業計画では、研修会、講習会等を積極的に開催するとともに、道路管理者や公安委員会等にその結

果の周知徹底を図る広報活動を実施。土木親和会と連携した陳情活動や発注要望、新技術・新製品の紹介等を行い、協会の宣伝活動に繋げていく。また、発注者に対する予算獲得、経費率アップ、分離発注等の陳情を予定している。

「新役員」（敬称略）

会長＝田中賢哉（西日本ディックライト株式会社 福岡）、▽副会長＝近藤正明（株式会社寿陽建設 北九州）、星子洋満（双葉工業株式会社 福岡）、▽理事＝井上晋作（交通器材株式会社 福岡）、千葉伸一（株式会社山水製作所 福岡）、末津直人（ニチハツ工業株式会社 福岡）、大方守（大東産業 北九州）、大塚広貴（株式会社九州標識 筑豊）、白石貴博（株式会社白石道路施設 筑豊）、稲富貢（（有）マルイ産業 筑豊）、高野敏治（（有）エスアールシステム 京築）、浅田実弦（株式会社久留米道路施設 筑後）、▽監事＝小西竹丸（ミカドコーポレーション株式会社 福岡）、中村政義（山王道路機材株式会社 福岡）

「顧問」（敬称略）

蔵内勇夫（自民党福岡県連会長）、原口剣生（自民党福岡県議団会長）、松尾統章（自民党福岡県議団幹事長）